

<参考資料（平年並の範囲）>

(1) 1971～2000年のデータに基づいた12～2月地域平均の気温、降水量、降雪量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(°C)		降水量平年比(%)	降雪量平年比(%)
北日本	-0.2～+0.3	日本海側	94～106	95～102
		太平洋側	81～112	
東日本	-0.3～+0.4	日本海側	95～104	72～111
		太平洋側	71～115	
西日本	-0.3～+0.6	日本海側	87～109	56～111
		太平洋側	74～116	
沖縄・奄美	-0.1～+0.3		83～114	

<参考資料（利用上の注意）>

(1) 気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10％以下や60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。